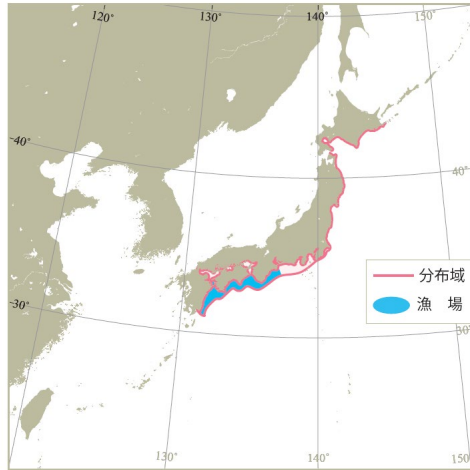




# ウルメイワシ（太平洋系群）①

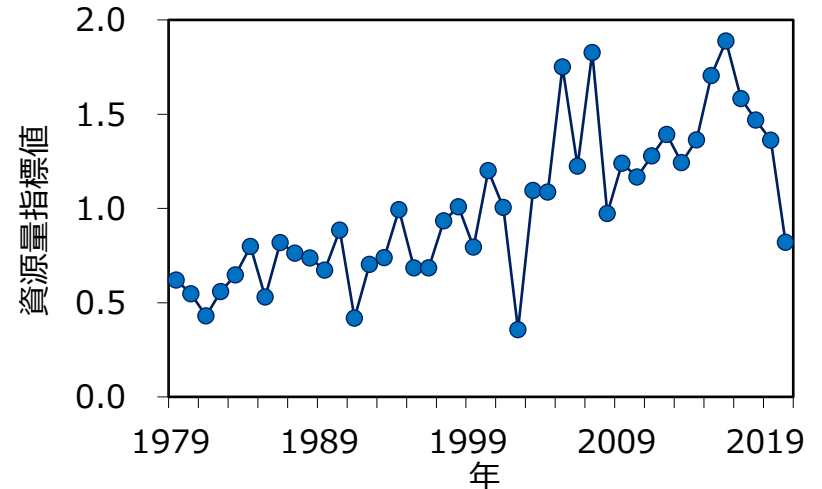
ウルメイワシは日本周辺に広く生息しており、本系群はこのうち太平洋沿岸と瀬戸内海に分布する。漁獲量は暦年（1月～12月）、資源量指標値は産卵期（前年9月～当年8月）の数値を示す。



**図1 分布域**

分布・回遊範囲は沿岸域に集中する。

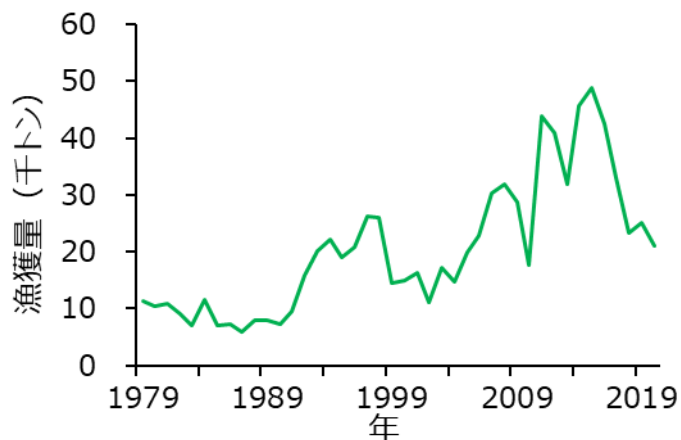
漁場の中心は日向灘～熊野灘の沿岸域である。



**図3 資源量指標値の推移**

資源量指標値は、卵密度の年変化を表した親魚量の指標であり、平均値が1となっている。

1979～2007年は0.36～1.83の範囲で増減を繰り返しながら増加した。2008年に減少した後は再び増加傾向となり、2016年に1.89と過去最高の値となった。その後は減少し、2020年は0.82と大きく減少した。



**図2 漁獲量の推移**

漁獲量は1990年代以降、変動しつつ増加傾向を示したが、2015年に4.9万トンと過去最高となった後は、減少傾向に転じた。2020年の漁獲量は2.1万トンであった。

# ウルメイワシ（太平洋系群）②

本系群で使用可能なデータは漁獲量と資源量指標値である。したがって、「令和3（2021）年度 漁獲管理規則およびABC算定の基本指針」の2系規則を適用する。

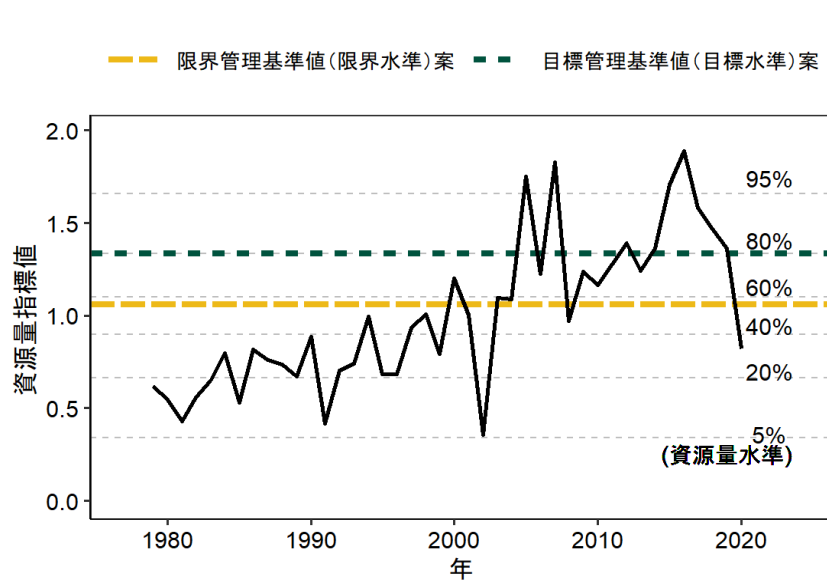


図4 資源量水準および管理基準値案

資源量指標値（黒線）の推移から求めた資源量水準に基づき、80%水準を目標管理基準値（緑線）、56%水準を限界管理基準値（黄線）として提案する。

2020年の資源量指標値（0.82）は33%水準に相当するため、限界管理基準値案を下回る。

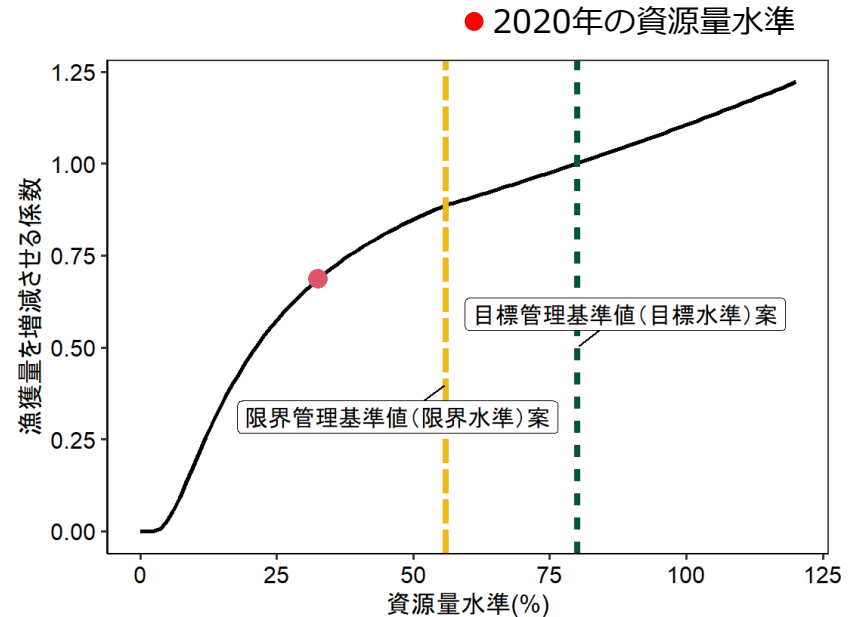


図5 漁獲管理規則案

資源量水準に応じて漁獲量を増減させる係数（黒線）を決める漁獲管理規則を提案する。資源量水準が目標管理基準値案（緑線）を上回れば漁獲量を増加させ、下回れば削減する。

現状（2020年）の資源量水準（33%）における漁獲量を増減させる係数（赤点）は0.686である。

本資料における、管理基準値、禁漁水準および漁獲管理規則については、資源管理方針に関する検討会（ステークホルダー会合）における検討材料として、研究機関会議において暫定的に提案されたものである。これらについては、ステークホルダー会合を経て最終化される。

# ウルメイワシ（太平洋系群） ③

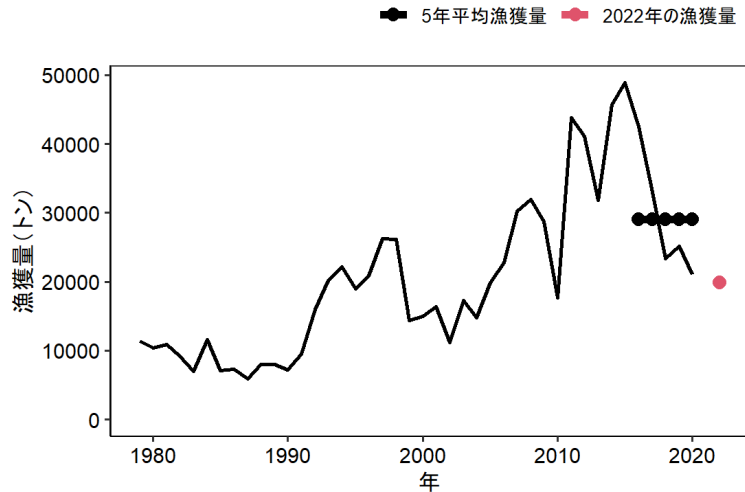


図6 漁獲量の推移と2022年の漁獲量

直近5年（2016～2020年）の平均漁獲量（黒丸、2.9万トン）に、2020年の資源量水準から求められる漁獲量を増減させる係数（0.686）を乗じて算出される2022年の漁獲量は2.0万トン（赤丸）となる。

	資源量指標値 (平均値を1とする相対値)	資源量 水準	漁獲量を増減させる 係数
目標管理基準値 (目標水準) 案	1.34	80%	1.000
限界管理基準値 (限界水準) 案	1.06	56%	0.880
現状の値 (2020年)	0.82	33%	0.686
資源量指標値の推移から求めた資源量水準と目標管理基準値案および限界管理基準値案の位置関係に基づき漁獲量を増減させる。2020年の資源量水準は33%であることから、2022年の漁獲量は2.0万トンと算出される。			